# 熊本県の保護上重要な野生動植物

## レッドデータブックくまもと

スズキ目スズキ科

和名　オヤニラミ
**学名**　***Coreoperca kawamebari*** **(Temminck et Schlegel)**

危急種(V)

選定根拠　分布境界、近年減少

環境庁カテゴリー　希少種（R）

水産庁危急度ランク　希少種

関連法令等　七城町の町魚に指定（1988年）。

## 概　要

日本では珍しいスズキ科の純淡水魚。淀川・由良川以西の本州、四国北部、九州北部に分布。本県の菊池川は南限河川である。ひれや鰓蓋の棘を立てるため、捕食者にも敬遠されるようである。食用にはされない。昔は川魚漁の網にからまるほど多かったが、近年全国各地で減少している。動物食性で、小型の水生昆虫や小魚などを食う。雌雄とも年中なわばり性をしめす。産卵期は４月下旬から９月までで、多くが５月。卵はヨシなどの抽水植物の茎や葉に産着する。雄は雌に産卵させた後、仔魚の時期まで保護する。

地方名…ヨツメ、ヨツメセイジャ、セイジャ、セイジャンババ、センペイ、セイガンジ、セイギン（チョ）、セェーベェー、ギシニラミ、ミズクリセェベェなどで、菊池川流域にたいへん多い。

## 形　態

全長は最大13cm。海産のメバル類に似ている。鰓蓋の後端に眼状紋があるのが最大の特徴で、体色や模様が美しい。

## 近似種との区別

日本には類似の淡水魚はいない。

## 学術的な評価

我が国では、スズキ科の純淡水魚は本種のみで、進化学上貴重な種である。地方名が多く、昔から人々に親しまれてきた。特異な形態と繁殖生態をもつ。南限河川である菊池川においては最大の特徴種である。環境の自然度を見る指標種に使える。

## 生息状況

菊池川が南限河川で、昔は多かった。白川支川の黒川（阿蘇谷）にも昔から生息していたが、これは江戸時代末頃に菊池川から移殖されたものと考えられる。その他、移殖による生息地や捕獲地には江津湖や八景水谷湧水池、嘉島町、球磨川などがある。しかし、現在は阿蘇谷と江津湖、嘉島町以外では見られない。菊池川と黒川水系では、高度経済成長期以前には大変多く生息していたが、その後激減した。しかし、1996～1998年には大洪水も見られず、菊池川中流や黒川水系でも増加している。オヤニラミの激減は水質悪化に加えて、物理的な生息環境の破壊によるものと考えられる。オヤニラミの産卵や生育には、抽水植物が生育している水深50cm程でゆるやかな流れのある環境が必要である。そのような環境の多くは河川工事などによってなくなりつつある。

## 生存に対する脅威

開発行為、農薬使用、水質汚濁。河川改修および大きな淵や水辺植物帯の消失。

## 特記事項

岐阜県や兵庫県の水産試験場で増殖技術開発や試験が行われている。

主要文献　23、60、69、70